アンリツ株式会社
会社説明会

アンリツ株式会社
代表取締役社長　グループCEO
橋本　裕一

東証第1部：証券コード　6754
http://www.anritsu.com

Copyright© ANRITSU

目　次

1. 会社概要

2. アンリツの今　ー 事業概要と経営体質 ー

3. 計測事業の特徴と強み

4. アンリツの成長ドライバーは？

5. 中長期経営ビジョン「2020VISION」

6. 株主還元と企業価値の向上

Copyright© ANRITSU

1. 会社概要

Copyright© ANRITSU

1-1. 会社概要

アンリツは、創業以来118年にわたり、
世界の通信技術の発展に貢献してきた
リーディングカンパニーです。

社名	アンリツ株式会社
本社所在地	神奈川県厚木市恩名5-1-1
創業	1895年(明治28年)
事業内容	通信用計測機器、産業機械、情報通信機器等の開発・製造・販売
資本金	190億52百万円 (平成25年3月31日現在)
売上高	946億85百万円 (平成25年3月期：連結)
従業員数	3,771名(平成25年3月31日現在：連結)
グループ企業	国内：11社、海外：27社

Copyright© ANRITSU

1-2. アンリツのルーツ　－有線･無線通信企業の統合－

1895年（明治28年）

有線通信のパイオニア
石杉社創業

阿部電線製作所

1900年（明治33年）

無線通信のパイオニア
安中電機製作所設立

1908年（明治41年）

共立電機電線設立

1931年
（昭和6年）

安立電気（株）設立

1985年
（昭和60年）

Anritsu　**アンリツ（株）に社名変更**

Copyright© ANRITSU

1-3. アンリツの2つの元祖（1）　公衆電話

Wired

公衆電話で、街頭でのコミュニケーションに貢献

- 1908年、公衆電話の元祖「共電式自働電話機」を製造
- 日本だけでなく、オーストラリア、メキシコ、中国などに輸出

Copyright© ANRITSU

1-3. アンリツの2つの元祖（2）　ケータイ

Wireless

スマホの源流は「TYK式無線電話機」

- 世界で初めて実用化された無線電話機を開発
- 三重県鳥羽市、神島に設置され、伊勢湾を航行する船舶の通信に利用

Copyright© ANRITSU

1-4. インターネット＆モバイルを支えるアンリツ

1900 **時代と通信の進展** 2000

Copyright© ANRITSU

1-5. 富士山頂のLTEサービス開始にも貢献

Wireless

LTEサービス加速で計測器堅調

基地局建設や保守向けに

高速無線通信のLTE（ロング・ターム・エボリューション）サービスの加速に伴い、端末の設計や生産、基地局の生産と設置、保守メンテナンス需要が高まっている。

国内外で展開する主要計測器メーカーは、スマートフォンやタブレット端末の台頭が、LTEサービスを急速に伸長させているという。

このサービス拡大に向けた基地局需要について、アンリツは「基地局建設に向けた計測器需要は堅調だ。定期的な保守や帯域幅（電波の周波数の範囲）の広がりに応える」と言う。

ローデ・シュワルツ・ジャパンは「フェムトセル（超小型基地局）の開発が活発になっている。LTEサービスのエリアを広げ、スループット（単位時間当たりのデータ転送量）を高めることが要因」と分析する。

アジレント・テクノロジーは「基地局の保守やメンテナンス市場は活況。基地局と基地局の干渉や（基地局の）最適化需要に対応している」と述べる。

ライトポイント・ジャパンは「開発や生産工程における早期市場投入（タイム・ツー・マーケット）要求を支援する中、端末だけでなくフェムトセルに対する開発と生産の引き合いが加速している」と語る。

ジェイディエスユー・ティアンドエム（JDSU T&M）は「LTE基地局の保守に向けた計測器提案を、ビジネスチャンスと捉えている」と意気込む。

一方で、LTEを10倍高速にした次世代高速通信のLTE－アドバンスド（LTE－A）の動きも明確化。主要計測器メーカーは、研究・開発に向けた支援を加速している。

富士山頂でLTE

携帯電話3社が8月末まで提供

世界文化遺産登録決定で今夏、大幅な登山者の増加が予想される富士山の山頂付近で、スマートフォンを使った夏季限定の高速無線通信LTEによる画像・データの大容量伝送が可能になった。これまで携帯各社は、LTEのひと時代前の3G（第3世代）サービスを富士山の山開き期間中に提供していた。

NTTドコモとソフトバンクモバイルは11日から開始。KDDIも臨時の基地局を設置し、16日からLTEの利用を可能にする。KDDIやソフトバンクモバイルの「アイフォーン5」で富士山頂からの通話が可能になるが、LTEサービスが富士山頂で使用できるのは今年が初めて。3社とも8月末までを通話サービス提供期間にしている。

世界文化遺産登録から初めての夏を迎える富士山は、登山客が大幅に増えると3社は予測。このため携帯各社も例年より設備を増強して、加入者のニーズに応えることにした。

富士山における携帯電話サービスは、NTTドコモが99年に初めて提供を開始している。

出所：電波新聞（2013年7月16日）

Copyright© ANRITSU

2. アンリツの今

ー事業概要と経営体質ー

Copyright© ANRITSU

2-1. 事業概要

計測事業を主力に事業展開

計測事業

情報通信サービスの進化・発展

- 携帯電話・スマートフォンの開発・製造
- 通信ネットワークの開発、建設・保守

産業機械事業

食の安全・安心

- X線異物検出機
- 重量選別機

Copyright© ANRITSU

2-2. 連結業績の推移

Copyright© ANRITSU

2-3. 強靭な財務体質

堅調な業績を背景に、自己資本が充実

Copyright© ANRITSU

2-4. 各種指標でみるアンリツのポジション

（1）営業利益率

※東証一部：2013年3月期決算企業（1,193社）単純平均

出所：各社決算資料、東京証券取引所統計

Copyright© ANRITSU

2-4. 各種指標でみるアンリツのポジション

（2）ROE（株主資本利益率）とPBR（株価純資産倍率）

海外企業との比較でも高水準の資本効率性

出所：各社決算資料、東京証券取引所統計
（2013年3月までに終了した期による）

Copyright© ANRITSU

３．計測事業の特徴と強み

Copyright© ANRITSU

3-1. アンリツはモバイル計測のキープレイヤー

世界の通信サービスをリードする主要企業がお客様

Anritsu

強固な信頼関係を構築

通信オペレータ

- NTTドコモ、ソフトバンク、KDDI
- ベライゾン・ワイヤレス（米）、AT&T（米）
- チャイナ・モバイル（中）、SKテレコム（韓）
- ボーダフォン（英）　など

チップセットメーカ

- クアルコム（米）、インテル（米）
- メディアテック（台）
- ST-エリクソン（スイス）　など

スマートフォン／タブレット端末メーカ

- ソニー、富士通、シャープ
- アップル（米）、アマゾン（米）、グーグル（米）、マイクロソフト（米）
- サムスン（韓）、HTC（台）
- ノキア（フィンランド）　など

Copyright© ANRITSU

3-2. 進化し続けるモバイル・ブロードバンド

高付加価値な製品販売と、
その後の継続的な
顧客サポートビジネスが収益源

Copyright© ANRITSU

3-3. グローバルな事業体制

世界18カ国に25の法人を展開
（研究開発拠点7箇所、製造拠点3箇所）

各地域の拠点からグローバルなお客様に製品を提供

Copyright© ANRITSU

3-4. モバイル計測業界の特徴

- 技術的な参入障壁が高く、
  限られた主要プレイヤーによる競争

- 長期にわたり培われた信頼と高度な技術の蓄積

- 主な競合企業

  ローデ・アンド・シュワルツ（独）　＜非上場＞

  アジレント・テクノロジー（米）　＜NYSE上場＞

Copyright© ANRITSU

4. アンリツの
成長ドライバーは？

Copyright© ANRITSU

4-1. マルチメディアが手のひらサイズに

モバイル通信の中心は
音声からデータへ

スマートフォンユーザの増加とともに、
データ通信量が1年間（2011年～2012年）で2倍に急増

出所：エリクソン

Copyright© ANRITSU

4-2. こんな経験ありませんか？

遅い！

途切れる！

電池の消耗が早い！

データ通信量の増加が
引き起こす
様々な通信トラブル

Copyright© ANRITSU

4-3. アンリツの計測ソリューションが「つながらない」の解決に一役買っています

端末の高品質化

スマートフォンの動作検証
アプリ開発、バッテリー試験. . .

基地局の拡充

基地局の建設・保守、
動作検証

通信ネットワークの効率化

東京タワー

放送電波の移行

東京スカイツリー

さまざまな無線通信が使用する
有限な電波帯域（周波数）の割当てを再編し
モバイル通信をつながりやすく

アンテナの
送受信特性解析

Copyright© ANRITSU

4-4. 成長ドライバー:モバイル計測事業

アンリツのビジネス拡大の Keyword

① スマートフォンの普及

② 高速モバイル通信LTE

③ モバイル基地局の拡充

Copyright© ANRITSU

4-4-1. Keyword ① スマートフォンの普及

先進国から新興国へ普及が拡大

地域別のスマートフォン出荷台数

出所：IDC

Copyright© ANRITSU

4-4-2. Keyword ② 高速モバイル通信 LTE

世界的な普及拡大とともに対応端末の生産が増加

LTE対応スマートフォン生産台数

世界のLTEサービス導入計画

アンリツのソリューション

LTE方式の研究開発、端末製造用テスタ
世界トップクラスの市場ポジション

出所：IDC, Gartner, GSA

Copyright© ANRITSU

4-4-3. Keyword ③ モバイル基地局の拡充

各地域で通信オペレータ間の「つながる」競争が激化

主な通信オペレータのLTEサービスエリア拡大

中国

チャイナ・モバイル
試験運用を15都市から
100都市に拡大

など、
本格導入に向けた準備が加速

日本

NTTドコモ
基地局を50,000局に倍増
ソフトバンク
基地局を37,000局に拡充
KDDI
2014年3月人口カバー率99%

北米

ベライゾン・ワイヤレス
500都市にサービス拡大
人口カバー約3億人に到達
AT&T
2014年3月人口カバー3億人
など

アンリツの ソリューション

無線基地局建設・保守用テスタ
世界トップシェア*

*当社推定

出所：各社発表資料等

Copyright© ANRITSU

5. 中長期経営ビジョン
2020VISION

Copyright© ANRITSU

5-1. 2020VISION

1 Global Market Leaderになる

・アンリツらしい企業価値の創造
・ワールドクラスの強靭な利益体質の実現

2 事業創発で新事業を生み出す

・新しい分野でアンリツの先進性を発揮

Copyright© ANRITSU

5-2. 3カ年経営計画 GLP2014

国際会計基準(IFRS)

営業利益率	連結	16%	17%	17%	**17%**
	計測	**20%**	21%	20%	**20%**

Copyright© ANRITSU

5-3. 計測事業の未来展望

社会インフラとして発展する
モバイル技術の進化を的確に捉え、
ビジネスを拡大

Copyright© ANRITSU

5-4-1. 産業機械事業

主な顧客　日本ハムグループ、グリコグループ、ニッスイグループ
クラフトフーズ・グループ、ユニリーバ　など

Copyright© ANRITSU

5-4-2. 産業機械事業の成長機会

海外の成長市場で「地産地消」体制を推進

アジア・新興国
品質検査市場の拡大

北米
食肉検査需要の増大

タイ工場

上海工場

当社推定

食品・薬化品の品質検査市場規模

Copyright© ANRITSU

5-5. 新たな柱の構築を目指す事業創発

Copyright© ANRITSU

６．株主還元と
企業価値の向上

Copyright© ANRITSU

6-1. 株主還元の充実

年間配当20円（中間配当10円）

■2013年3月期　DOE 5.1%

（参考）
東証一部単純平均：2.15%

配当方針

株主の皆さまに対する利益還元策は、連結業績に応じた利益配分を基本方針としております。基本体系は連結当期利益の水準に応じて親会社所有者帰属持分配当率（DOE）の目標範囲が決まるとともに、企業価値を向上させる視点から諸般の事情を総合的に考慮して剰余金の配当を行うこととしております。

Copyright© ANRITSU

6-2. 企業価値と経営の透明性向上

Copyright© ANRITSU

注　記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

Copyright© ANRITSU

Anritsu

Discover What's Possible™

Copyright© ANRITSU

（ご参考）アンリツ　IRサイトのご紹介

会社情報、財務・業績データ、決算関連資料、事業紹介など、皆さまの情報収集に役立つ情報を掲載しています。

株主・投資家の皆さまを対象としたアンケートを実施中です。

ご回答頂いた方から抽選で100名様に図書カード(¥1,000相当)を進呈致します。
是非ご協力をお願いします。
（実施期間：2013年8月15日まで）

【アクセス方法】
アンリツホームページ(http://www.anritsu.com)→左メニュー「投資家のみなさまへ」をクリック

Copyright© ANRITSU